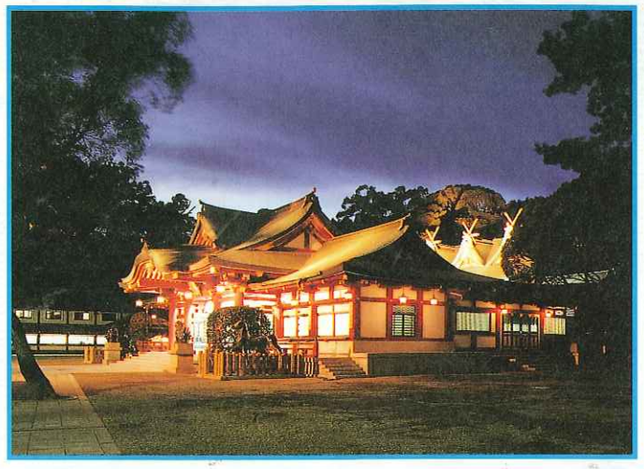
NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす



昭和二十年八月六日戦災により惜しくも焼失した拝殿は、昭和三十六年に鉄筋コンクリート打放し工法銅版葺、土間形式にて再建されました。

回廊で結ばれている総ヒノキ造の本殿とも見事に調和、この度の阪神大震災による修復工事も終え、装いも新たになりました。

平成8年
夏号

西宮神社／〒662 兵庫県西宮市社家町1-17
TEL／0798-33-0321 FAX／0798-33-5355

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

平成8年
夏号

四季の境内
（戎神社藤棚満開之図・辻 愛蔵 昭和4年）

◎編集室から

激動だった昨年とはうってかわり本年は穏やかな始まりとなり、諸祭典・行事も震災前の賑やかさを取り戻しつつあります。

平成元年から行われています「にしのみや宮水まつり」も今年で第8回目を迎えます。震災で休蔵の酒造会社もありますが先人の知恵と努力の継承、発展をご期待いたします。

大阪日本橋の国立文楽劇場でご公演中の吉田文雀さんをお尋ねしました。人間国宝という最高の評価をうけられても、なお益々旺盛な探究心を持ち続けていらつしゃるお姿に人生の規範を見せていただく思いでした。

（晃）

西宮えびす平成8年夏号（通巻第5号）
平成8年6月1日発行
発　行／西宮神社
〒662西宮市社家町1－17
編　集／講務課広報
デザイン／OHTAファーゼン
資料提供／白鹿記念酒造博物館
朝日新聞アンテナ編集室
スミカワ研究所
西宮市立郷土資料館
写真提供／讀賣新聞阪神支局
毎日新聞阪神支局
共同通信大阪支社

◎夏越しの大祓のご案内

古来より我が国では、一年を六月と十二月で二つに分けてそれぞれの末日に国土・国民の罪・穢を祓う「大祓式」が全国の神社で執り行われてきました。

特に六月の大祓は夏越し祓又は、六月祓とも呼ばれ、体力が消耗しがちな暑い夏を迎えるにあたり、知らず知らずのうちに身につけた穢や厄難を人形に託して、清々しい身になることを目的としています。

また当社から大祓神事のお下がりとしてお授けする「茅の輪」は、備後風土記に見られる小さな茅の輪を腰につけて疫病を避けた蘇民将来の説話に由来するもので、夏に流行する疫病や災いを避けるお守りです。

なお、当日神事に参加できない方は、人形に氏名・年齢をご記入いただき、身体を撫で、息を吹きかけて、社務所にお持ちいただくか郵送していただければお祓いをした後、武庫の海へお流しいたします。

大祓神事の人形を、ご希望の方は電話にてお知らせいただければお送りいたします。

☎〇七九八（三三）〇三二一
西宮神社講務課

▼新社務所完成予想図（大林組提案図面より抜粋）

◎ご奉賛のお願い

この度の震災による復興にあたりましては、全国各地のご崇敬の皆様から多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。

平成七年九月十三日から三年間、当社への奉賛金に対しましては特別免税措置がとられています。これによりまして個人でお申し込みの方は、奉賛金額のうち一万円を越える額を課税所得から控除できます。法人でお申し込みの方は、奉賛金額の全額を計算上の損金に算入できます。

詳しいお問い合わせ並びに申し込み書ご希望の方はご連絡下さい。

☎〇七九八（三三）〇三二一
西宮神社震災復興本部

◎初宮詣

初宮詣は赤ちゃんが生後初めて神社に参拝し、今後の健やかなる生育を祈願する行事です。

当社では産着の無料貸し出しや、ご祈祷をうけられた方に、赤ちゃんのお顔写真の撮影券をお渡ししています。

新装なりましたご本殿でお子様のご誕生を、お祝い下さい。

宮司 吉井　良隆

地震と鎮守の森

今年もまた新緑の若葉萌ゆる好季節が訪れてきました。昨年の大震災がえびすの森にどのような影響を与えたのか、一抹の不安をもって注目をしていましたが、季節到来には地震どこ吹く風かとばかり見事、緑したたるすばらしい景観を演出してくれました。その瑞々しい活力は、やもすると沈滞気味になりがちであった私どもの心を何よりも勇気づけてくれるものです。

顧みれば、五十年前の戦災で焼野原と化したえびすの森が、全くの枯木から見事に立ち直り、今日の姿に復活した自然の力強さと考え合わせ、頭の下がる思いがいたします。　地震の驚異は確かに自然界の大異変にちがいありませんが、それに抗して悪条件のなか黙々と成育を遂げてきた森の木々の活力もまた自然の驚異といえましょう。神社前の阪神高速道路の高架橋が落下したために日当たり、風通しがよくなってきたのか、神苑の樹木の発育が目に見えてよくなってきました。しかし今再び高速道路が架けられようとしています。一方、森の北側では電鉄の高架工事が進められ、やがては森の上を電車が走ることになるでしょう。

文化の発展進歩は、その波及効果にこそ期待すべきでありますが、交通運輸にかかわる車公害やビルの乱立が自然界、とりわけ鎮守の森にどのような影響を与えるかをじっくり観察し続けていきたいと思います。

◆おこしや祭り

◎六月十四日

えびす様が現在の鎮座地へお越しになられる途中、居眠りをされたので、お尻をひねったことから別名を「尻ひねり祭り」とも呼ばれています。

当日は、びわ籠を手にしたびわ娘が御輿のお供をし、おこしや跡地で参拝者にびわをお配りします。関西の夏祭りのさきがけとして、地元ではこの日から浴衣を着初めます。

◆夏越しの大祓

◎六月三十日

人が知らず知らずのにうちに身につけた穢を祓い清め、災厄を避けます。

古くは伊邪那岐命が黄泉国の穢を祓ったとされ、以来大宝令（約千三百年前）により定められ今日に受け継がれています。

◆夏祭り

◎七月二十日

祭典と暑気を払う湯立て神楽が執り行われます。

夕刻はえびす萬燈籠点灯式に引き続きご神火を手にした氏子らにより境内外の約三百基の燈籠に灯がつけられていきます。

◆例祭（秋祭り）

◎九月二十二日

例祭は神社において最も重要とされているお祭りで、氏子をはじめ全国から崇敬者の参拝があります。

戦国時代には神戸の和田岬まで船渡御をしていましたが、戦後は氏子区域を御輿と地車が巡行するようになりました。

◆観月祭

◎九月二十七日

仲秋の名月、本殿での祭典に引き続き女人舞楽で有名な原笙会による舞楽奉納を鑑賞した後、西宮神社会館にてお月見料理をお楽しみ下さい。

西宮神社の祭典・行事

「毎月一日、十日、二十日は旬祭」

五月

1日午前10時30分・本殿　西宮郷酔友会太々神楽祭
2日午後2時・本殿　八馬家太々神楽祭
3日午前9時30分・本殿　憲法記念祭
3日午前11時・本殿　大阪第一招福組太々神楽祭
4日午前11時・本殿　日供講社太々神楽祭
5日午前10時・本殿　子供の日祭
5日午後2時・本殿　西宮太々講社太々神楽祭
6日午前9時・六甲山神社　六甲山神社祭
6日午前11時・本殿　諸国講社太々神楽祭
10日午前11時・本殿　本えびす講社太々神楽祭
15日午前11時・大国主西神社　大国主西神社祭

六月

14日午後3時・おこしや跡地　御輿屋祭
17日午前11時・市杵島神社　市杵島神社祭
30日午後4時・拝殿前　大祓式

七月

10日午前11時・沖恵美須神社　沖恵美須神社祭
20日午前10時・本殿　夏祭
20日午後6時・拝殿　えびす萬燈籠点灯式

八月

24日午前11時・愛宕神社　愛宕神社祭

九月

15日午前10時・本殿　敬老の日祭
21日午前11時・庭津火神社　庭津火神社祭
21日午前10時・宮水跡地　にしのみや宮水まつり
21日午後0時・本殿　えべっさんの酒醸造祈願祭
21日午後5時・本殿　宵宮祭
22日午前10時・本殿　例祭
22日午後2時・本殿　渡御祭
23日午後11時・祓所　皇霊殿遥拝式
27日午後6時・本殿　観月祭

十月

10日午前10時・本殿　体育の日祭
25日午前11時・本殿　西宮菊花展開催奉告祭

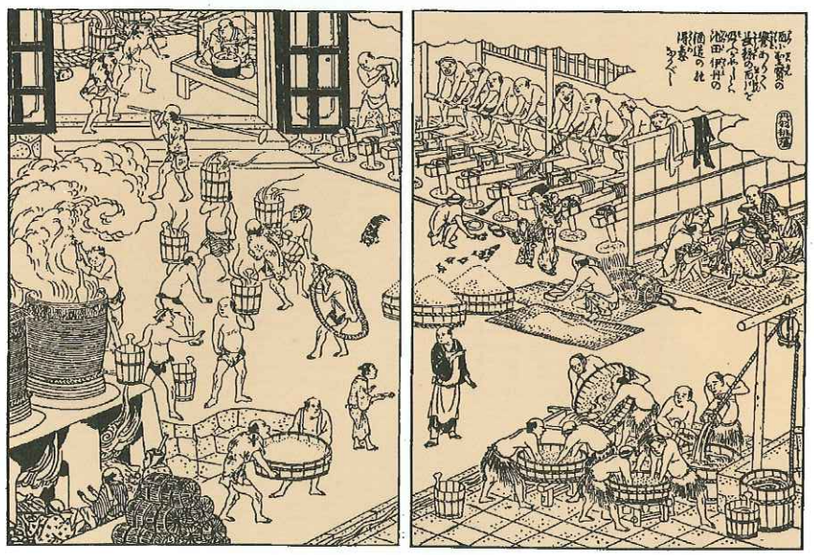
十一月

3日午前11時・本殿　明治祭
20日午前10時・本殿　誓文祭
22日午後2時・本殿　造営記念祭
23日午前11時・本殿　新嘗祭

にしのみや 宮水まつり

酒造りの命は仕込みの水といわれています。六甲山麓から西宮神社の下を流れて湧く「宮水」は特に日本酒醸造に適しており、この水を求めて多くの酒造家が西宮に集まりました。

西宮市内の酒造会社十七社は、宮水と西宮のお酒のPR、新酒の醸造祈願を「宮水まつり」と名付けて毎年九月二十一日に行っています。



◆江戸時代の酒造りのようす　摂津名所図会から　石ウスで精白した米を桶で洗い、セイロで水を切り、コシキで蒸します。蒸米を小桶で運びムシロの上に広げて冷し、「こうじ」用と「仕込み」用に使います。小さな桶で水とこうじと蒸米を丹念にかきまぜ「もと」をつくります。「もと」を大きな桶に移し水とこうじと蒸米を追加して「もろみ」をつくります。もろみを酒袋に入れて「新酒」をしぼります。下記の絵は昔の酒造りに用いられた道具です。

◆宮水の歴史探訪

西宮のお酒の歴史は古く、室町時代には「西宮の旨酒」として知られていましたがその名声を不動のものにしたのが宮水の発見です。

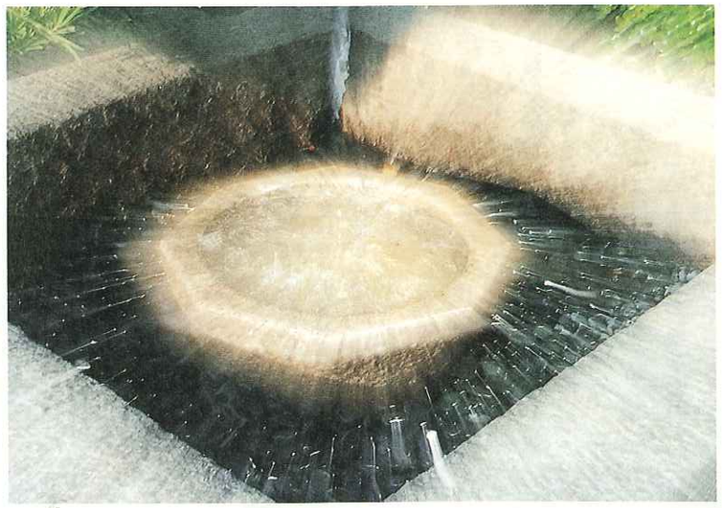
神戸の魚崎と西宮に蔵を持つ酒造家山邑太左衛門は、魚崎の酒が夏を過ぎると味が落ちるのに西宮の酒は更に豊醇になり「秋晴れ」と称されるのは、仕込みの水に原因があることを天保十一年（一八四〇）につきとめました。これ以降宮水は「宮水屋」によって樽につめられ灘五郷をはじめ、水船に積まれ全国各地にも送られましたが、現在では各酒造メーカ専用の宮水井戸からタンクローリーで輸送されています。

日本の名水百選にも選ばれた宮水の成分は、酒造りに適さない鉄分やアンモニアが少ない半面、リンやカルシウム、カリウムなど発酵を促進する微量成分が多く、適度の塩分を含むため、灘酒の特徴である辛口の酒に仕上がります。

六甲山麓の伏流水が宮水に変化する過程は、今なお神秘のベールに包まれていますが、西宮神社付近の昔の海岸線に貝殻の地層があることや山水に海水が微妙に混ざるという阪神間の地形が織りなす天与の水であるといえます。

◆にしのみや宮水まつり
宮水発祥之地記念碑前に特設された祭壇に角樽をお供えし、宮水への感謝と酒造業の発展を祈ります。

◆宮水の汲み上げ
一般から公募され選ばれた宮水娘が井戸から宮水を汲み上げ各酒造会社の角樽へ入れます。



◆宮水は生きている
流れる水は生きているといわれていますが、まさしく、宮水は流れる生きた水です。地下貯水池とは違い、常に維持管理された浅い宮水井戸群は、汲めばいつでもそのまま飲むことができます。

◆宮水井戸の開放
阪神大震災の影響を受けずに湧き続けた宮水は、地震直後から近隣住民の貴重な飲料水として開放されました。

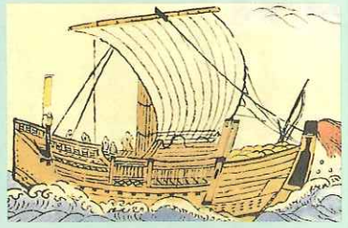
◆酒造り歌
「もと」づくりの際に歌われたもとすり歌は、単純作業にリズムをつけるだけでなく、一つの行程の時間をはかる役目もかねていました。

◆えべっさんの酒
西宮市内の日本酒醸造十七社による共同銘柄として毎年十一月下旬から発売されます。

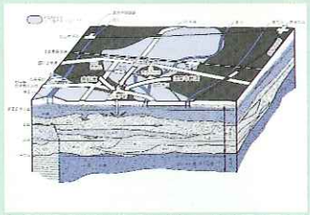
◆宮水で地震予知？

西宮は武庫川、夙川をはじめ六甲山系の伏流水が多く、昔から水害に悩まされてきた半面多くの恵みをうけてきました。

阪神大震災の直前にこれらの地下伏流水のラドン濃度が急激に増加していることが宮水保全のための調査において確かめられました。放射性の希ガスであるラドンは、水に溶けて移動しやすいため、地層にひずみが生じると濃度が変化する性質が知られており、今回のデータは地震予知研究のうえで極めて重要な役割を果たすであろうといわれています。



江戸時代、毎年、江戸に入荷した清酒約120万樽のうち、灘五郷からの約80万樽が西宮港から樽廻船で運ばれました。江戸へ出荷したものを「下り酒」といい、その反対がくだらない（つまらない）の語源となっています。



気候が温暖であった縄文時代は、海水面が現在よりも約3m上昇していたので浅瀬が内陸まで広がっていました。そこに堆積した貝殻やプランクトンの遺骸を含む砂層中に地下伏流水が流れ込み宮水となります。

えびす様と人形操り

◆人形劇のルーツは西宮にあった

西宮神社境内に鎮座している百太夫神社には、人形操りの元祖といわれている西宮の傀儡（くぐつ）師が祖神として崇めた百太夫神をお祀りしていますが、もともとは神社の北隣にある「サンショ」（現在の西宮市産所町）というところに鎮まっていました。「サンショ」とは一般的には散所とも書き中世以降年貢を免除されるかわりに社寺などで雑役に服する人々が住んだ地域を指します。西宮の傀儡師は雑役の傍ら技芸にも秀でており「えびすかき」と称して幾組にも分かれて全国を廻りえびす様をかたどった人形を操って御神徳や縁起を説いて西宮神社のお札を配って歩きました。これが人形操りの元祖であり、えびす信仰が全国に広まっていったもとであるといわれています。

その後、西宮の傀儡師は、三味線の普及により民衆芸として発展してきた浄瑠璃という語り芸と結びついて芝居小屋等で演じるものと、一人芝居の大道芸人的なものに分かれていきます。

室町時代には、京都に上り宮中にも参入して上覧に供したことが「御湯殿上日記」にも記載されているほか、数々の文献にも記録が残っています。仙洞御所で行われた時には演技が深更にまで及び陪観の公卿たちは鶏の鳴き声を聞いて退出したなどとあり、現にこの様子が修学院離宮の襖絵にも描き残されています。

江戸時代になると、西宮の人形芝居小屋へ尼崎城主松平候の子女たちも度々見学に来られていることが社務日記に散見されます。

◆百太夫様は子供の守り神

一方、この百太夫の神は、当時最も恐れられていたホウソウ（天然痘）の治療に霊験があるとされていました。八代将軍吉宗のとき幼年の家重が感染したので西宮の神主が進言し、神号を献上したので効果があったと記録されています。そのようなことから、今日でも西宮では、赤ちゃんの初宮詣のことを百日参りと称して、生まれてから百日目に百太夫神社にお参りをする習慣が残されています。

◆大道芸から重要無形文化財に

明治にはいり西宮の人形座は次々に消えていき、今では産所町に傀儡師史跡碑が残されているのみですが、早くから淡路島に移った人形浄瑠璃が現在国の重要無形文化財に指定されているほか、江戸時代後期に淡路島から大阪へ打って出た植村文楽軒が道頓堀に文楽座を起こし、それが戦後松竹の朝日座となり、現在は国立文楽劇場で演じられている大阪の伝統芸能「文楽」となっています。

●戦後のえびす舞（昭和35年・岡山県下津井にて　エド・ファン・デル・エルスケン撮影）
えびす様の人形を舞わしながら、初春の祝儀をおもしろおかしく歌い、門付けして歩くのどかな正月風景が四国や瀬戸内地方では、近年までみられました。

百太夫様に守られて

「文楽というのは情を理解しないと人形に心が入らないのです。ちょっと上を見る仕草でもさまざまな条件で人形の表情は変わってきます。文楽人形の頭が小さいのも情を表現するためです。そういったきめ細かな技術をいつまでも追究したいですね。」と語られる文雀さんは、昭和二十年に三代目吉田文五郎門下に入られ人形の劇中での感情や感覚の表現演技を研究確立されてこられました。

地元西宮にお住まいの氏子であり昨年十月の本殿遷座奉幣祭には、三番叟をご奉納いただきました。

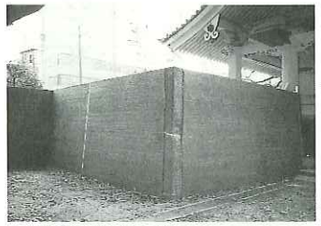
「人形操りの芸能史には百太夫信仰が重要な意味を持っています。三番叟の頭もえびす様のお顔になっており、劇場では毎朝開演前にお清めの意味を込めて演じられています。百太夫神社が、昭和二十年の戦災にも今回の大震災にも健気にも立っているお姿をみて随分勇気づけられました。西宮の顔となりつつあった『酒蔵文楽』も震災により酒蔵が倒壊してしまいましたが西宮を象徴するえびす様と人形操りと酒造りの融合が全国に発信する地域文化の核になると思います。」

人形浄瑠璃文楽人形遣い
人間国宝　吉田文雀さん

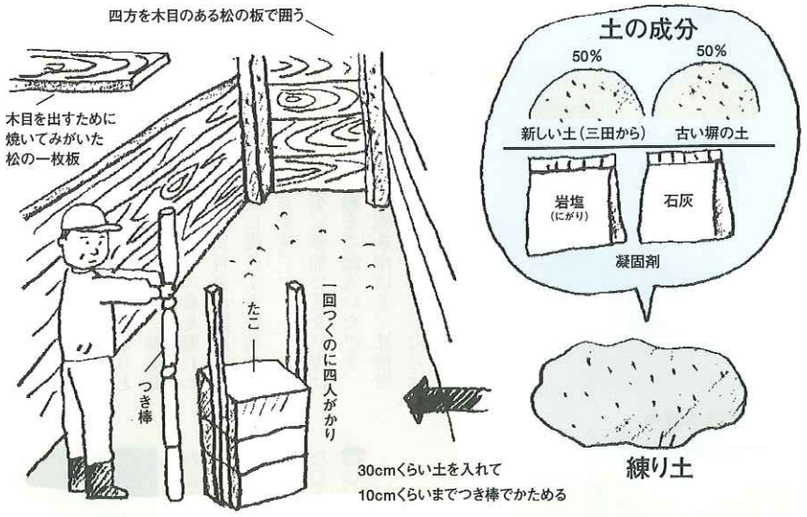
トピックス

大練塀修復記

震災直後の大練塀。



築土が完了したばかりの大練塀。
壁面に木目の模様が出ている。



当社の東面と南面を囲む総延長二四七mに及ぶ練り土だけでつくられた塀が、国指定の重要文化財「大練塀」と呼ばれています。これは名古屋市熱田神宮の「信長塀」、京都市蓮華法院（三十三間堂）の「太閤塀」と共に「日本三大練塀」と称されており、その中でも当社のものが最古、最大規模のものです。

この大練塀に関する文献は残されていませんが、築造年代の推定は、昭和二十年に戦災で屋根部分が焼失し、風雨で崩落した練り土を修理した際、中国の元の時代の貨幣八枚が発見されたことによります。その中で一番新しかった洪武通宝（一三六八～一三九八）が流通していたのが室町時代中期でした。

しかしながら、阪神大震災の激震には耐えられず、いたる所に亀裂が入り、また東面の壁は大半が崩れ落ちてしまいましたが、重要文化財の指定を受けているため、文化庁の指導により旧態に復元する工事が昨年七月から始まりました。

復元工事は、築造当時さながらの伝統的な「版築工法」と呼ばれるもので進められています。作業は、まず崩れた土を砕いてふるいにかけ、新しい土と石灰やニガリを加えて練り土をつくります。次に焼き目を入れた木枠を一区画毎（約四m）に組み上げ、そこに少しづつ練り土を入れては突き棒などで固めていくというものです。場所により突き固める堅さが異なるため、職人の熟練した技術と経験が必要です。年末までには工事を終え、新年には創建当初の姿がよみがえる予定です。

■大練塀に現代銭練り込み　◎三月十八日

阪神大震災による被災を後世に残そうと氏子世話人の大西忠四郎さんの呼びかけで、修復途中の大練塀に地震の起きた平成七年銘の貨幣と太刀などを型どった鎮物が練り込められました。これは昭和二十五年に修復工事を行った際、中国元時代の通貨が発見され築造年代が推定できたことにならったもので、発起人の大西さんは「貨幣が二度と塀から出てこないことを祈ります」と話しておられました。

■阪神タイガース必勝祈願　◎四月二日

西宮市にある甲子園球場を本拠地とする阪神タイガースのプロ野球セ・リーグ開幕直前の恒例の必勝祈願祭が斎行されました。藤田新監督をはじめ選手、関係者一同「必勝」の二文字を心に念じ玉串を奉奠誓いを新たにしました。祭典終了後、阪神米穀㈱田中覚社長より藤田監督を通してタイガースの独身寮に「えべっさんのお米」が贈られました。

■ダイハツ「ミゼットⅡ」新車祈願式　◎五月八日

平成五年の東京モーターショーに参考出品され話題を呼んだ一人乗り軽四輪車「ミゼットⅡ」発売にあたり、販売拡大祈願祭が斎行されました。ダイハツ工業㈱本社役員、開発・生産・販売関係者らがお祓いをうけ、購入者の交通安全も併せて祈願しました。ユニークなCMとかわいらしいスタイルで街の評判となることでしょう。